室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2023年度

活　動　報　告　書

Annual Report, 2023

目　　　　　　次

1. 報告書の発刊にあたって ･･ 1
国際交流センター長　木幡　行宏

2. 国際交流ポリシー ･･･ 2

3. 国際交流センターの業務 ･･ 3

4. 国際交流センターの組織 ･･ 4

5. 学内及び学外の会議等 ･･ 6

6. 国際学術交流 ･･ 10

7. 外国人留学生 ･･ 15

8. 国際交流センター教員が担当した講義 ････････････････････････････････ 24

9. 室蘭工業大学国際セミナー ･･･ 30

10. 留学生を対象とした行事及び研修等 ･･･････････････････････････････････ 32

11. 学術交流協定校･機関との交流 ･･ 36

12. 学生の海外への派遣 ･･ 42

13. 外国人短期研修生･外国人インターンシップ研修生･外国人研究員受入れ ･･････････ 48

14. 国際交流クラブ ･･ 50

15. 広報活動 ･･ 51

16. 教員の研究活動 ･･ 53

17. おわりに ･･ 57
国際交流センター准教授　　白　尚燁

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（副学長）　木幡　行宏

2020 年度初頭からパンデミックとなった新型コロナウィルス感染症(COVID-19)は、時間の経過とともに徐々に収束に向かい、2022 年 3 月には北海道を対象とした「まん延防止対策等重点措置」が解除されました。この措置に伴い、本学の行動指針(BCP)も引き下げられ、2022 年度には、本学の海外派遣条件の緩和を行いました。その後、2023 年 5 月には感染症法上の分類が 5 類へ移行されたことから、2023 年度の国際交流活動も本格的に復活した状況になりました。その結果、派遣留学 34 名、語学研修等 16 名の合計 50 名の日本人学生を派遣することができました。本学の第 4 期中期目標に日本人学生派遣数を 72 名（第 3 期目標 60 名の 1.2 倍）として掲げておりますので、コロナ禍が明けてからの初めての実績としては、まずまずの成果であると感じています。このまま順調に伸びていくことを期待するところです。

2023 年 10 月現在、178 名（15 か国）の留学生が本学で勉強しており、国際学術交流協定を結んでいる大学機関等は、2023 年度末時点で 55 大学、4 機関で、23 か国となっています。また、2023 年度の外国人留学生の受入れ状況をみると、2023 年度中に入学した国外在住の留学生は 35 名でした。2022 年度は、長引く入国規制等によって入学辞退や退学した者がおりましたが，2023 年度は入学辞退者、退学者はおりませんでした。

本学では、留学生に、勉学や研究以外にも、日本の伝統行事や文化、北海道の雄大な自然に触れることで、より深く日本のことを知ってもらうために、見学旅行やさまざまな体験ツアーを国際交流センター行事として行ってますが、今年度は、これらの行事についても新型コロナ前の状況と同様に実施することができ、大変嬉しく感じているところでございます。また、本学では、毎年、ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)の学生に対して日本語研修プログラムを実施してきましたが、新型コロナ禍のため、2018 年度の受入れを最後に中止せざるを得ない状況でした。しかし、今年度は 5 年ぶりに本行事を再開いたしました。11 月 8 日～21 日に日本語研修プログラムを設定し、RMIT から学生 15 名、教員 1 名の参加があり、本学の教職員も含めたホストファミリーは 16 家族でした。ご協力いただいた皆さま方には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

例年実施している留学生交流推進懇談会につきましても、2024 年 2 月 15 日に実施いたしました。本懇談会は本学の留学生にご支援・ご協力を頂いている室蘭市内の関係機関・団体・個人の方々に対して、本学の留学生交流推進の取組みを紹介しご意見を拝聴することを目的に開催しております。また、懇談会後の留学生交流会を 4 年ぶりに盛大に開催いたしました。参加者は約 90 名で、ご支援いただいている方々のほか、本学からは留学生はもちろんのこと、学長、役員、教職員、学生が参加いたしました。留学生諸君には、忘れられない思い出の 1 ページになったのではないかと思います。特に、卒業・修了する学生にとっては、室蘭での最後の記憶として残ったと感じております。

最後に報告書の発刊にあたって、2023 年度活動報告書が、本学のさらなる発展と新たな飛躍への基礎資料となれば幸いです。

2024 年 3 月 30 日

2. 国際交流ポリシー

室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

（前文）

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢　室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。

2. 教　育　国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。

3. 研　究　教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。

4. 留学生受入　各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。

5. 地域貢献　地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。

6. 運　営　上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

（付記）

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。

3. 国際交流センターの業務

国際交流センターの業務は、次のとおりである。

(1) 国際交流事業に関すること。

- 外国の大学等との交流協定締結、更新等の支援事務
- 交流協定校等との交流事業及び行事の支援
- 本学教職員の国際活動の支援
- 本学学生の国際性教育の支援
- 本学の国際交流推進に関わる企画、立案及びその支援

(2) 外国人留学生に関すること。

- 留学生(正規生、研究生、聴講学生、短期研修生、インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- 留学生に対する日本語教育その他の教育と、共通教育及び専門教育の修学支援
- 留学生のための宿舎など生活支援に関わる業務及び相談への対応
- 留学生のための各種奨学金の広報、応募、申請、配分支援などに関わる業務
- 卒業・修了者も含めた留学生との交流促進

(3) 外国人研究員に関すること。

- 外国からの研究員及び教職員の受入れ支援

(4) 学生の海外派遣に関すること。

- 本学学生の海外留学、短期研修、国際会議参加などの支援

(5) その他国際交流及び留学生に関すること。

- 国際交流に係わる他大学、地域自治体及び諸機関との連携活動

4. 国際交流センターの組織

4.1 国際交流センターの構成員

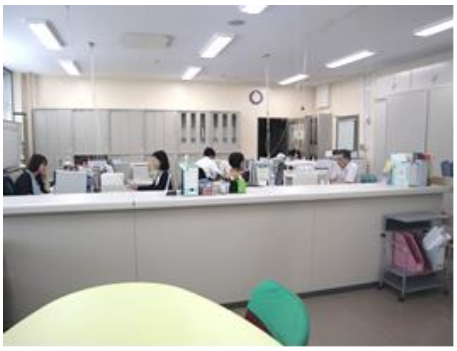
2023 年 5 月 1 日現在の当センターの構成員は、以下のとおりであった。

国際交流センター長・副学長	木　幡　行　宏
専任准教授	小　野　真　嗣
専任准教授	白　　尚　燁
専任准教授	坂　本　裕　子
入試戦略課国際交流室	
国際交流室長	伊　藤　光　春（兼務）
国際企画係長	永　利　　卓（兼務）
国際企画係員	中　山　昂　紀
留学生係長	永　利　　卓
留学生係主任	髙　橋　秀　徳
事務補佐員	藤　田　桂　子
派遣職員	村　川　優　子

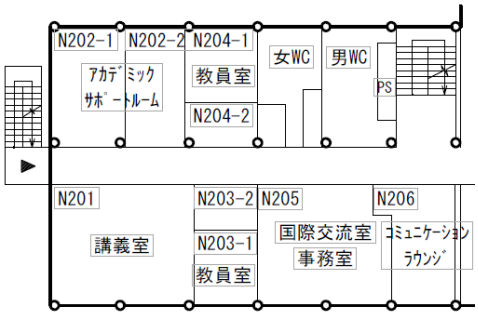
計１０名

4.2 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は、以下の図及び写真に示す事務室、コミュニケーションラウンジ、アカデミックサポートルーム並びに専任教員の教員室である。



事務室



N 棟 2 階フロアマップ

コミュニケーションラウンジ

4.3 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わって「国際交流委員会」が発足した。その任務は、次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言及び事業実施への協力支援の機能も期待されている。

(1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
(2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
(3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
(4) 学生の海外留学に関すること。
(5) 外国人研究者の受入れに関すること。
(6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
(7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所　　属	職　名	氏　　名
ー	理事（研究・連携担当）	船　水　尚　行
国際交流センター	副学長 センター長	木　幡　行　宏
国際交流センター	准教授	小　野　真　嗣
国際交流センター	准教授	白　　尚　燁
国際交流センター	准教授	坂　本　裕　子
創造工学科	教　授	北　沢　祥　一
創造工学科	准教授	立　山　耕　平
システム理化学科	教　授	竹ケ原　裕 元
システム理化学科	准教授	黒　澤　　徹
理工学基礎教育センター	教　授	クラウゼ　小野　マルギット
理工学基礎教育センター	准教授	ペレム　ジョン　ガイ
もの創造系領域	准教授	大　石　義　彦
しくみ解明系領域	准教授	佐　藤　和　彦
しくみ解明系領域	助　教	澤　田　紋　佳
国際交流室	室　長	伊　藤　光　春

5. 学内及び学外の会議等

5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者、(2) 国際交流センター長、(3) 国際交流センター専任教員、(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各 2 名（1 名は教授)、(5) 国際交流室長、(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2023 年度の国際交流委員会開催日及び審議事項等は、以下のとおりである。

第 1 回 5 月 10 日(水)

確認1. リモート開催時の運営について

議題1. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の受給者選考について

2. インドネシア・北スマトラ大学との学術交流協定更新について

3. 中国・曲阜師範大学との学術交流協定更新について

報告1. 2023年度第１回外国人客員研究員支援経費公募選考結果について

2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

3. 2023年4月留学生受入状況について

4. 2023年度第Ⅱ期ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生の公募について

5. 2023年度第Ⅱ期佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について

6. 派遣留学生の選考結果について

7. 第4期中期目標期間に係る事業計画の工程表の見直しについて

第 2 回 6 月 12 日(月)(持回り)

議題1. 室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度実施要項等の一部改正について

第 3 回 7 月 6 日(木)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

2. 研究生（外国人留学生）の選考について

3. 特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて

4. 特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて

5. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について

6. 2023年第Ⅱ期国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について

7. 台湾・国立屏東大学との学術交流協定締結について

報告1. 派遣プログラムの募集について

第 4 回 8 月 31 日(木)(持回り)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

第 5 回 9 月 13 日(水)

議題1. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について

2. 特別聴講学生の（外国人留学生）の受入れについて

3. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について

4. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について

第 6 回 10 月 5 日(木)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

2. 文部科学省外国人留学生学習奨励費留学生受入れ促進プログラム予約制度の受給者選考について

3. 2023年度国際学術活動支援プロジェクトの実施期間変更について

報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

2. 2023年度第2回室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費公募選考結果について

第7回　11月17日(金)
議題1. 研究生（外国人留学生）の選考について
　　2. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
　　3. イギリス・ストラスクライド大学との学術交流協定締結について
　　4. 韓国・韓国交通大学校との学術交流協定締結について
　　5. 国際共同研修プログラムにおける引率教員の渡航支援について

第8回　1月31日(水)
議題1. 特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて
　　2. 特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
　　3. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考について
　　2. 派遣と協定に関するASTA評価項目新設の要望結果について
　　3. 国際共同研修プログラムにおける引率教員の渡航支援について

第9回　2月29日(木)
議題1. 大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
　　2. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について
　　3. 2024年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について
報告1. 2024年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）
　　申請に係る採否結果について
　　2. 2024年度日本学生支援機構協定派遣「工学系グローバル人材育成派遣プログラム」の派遣学生募集について

第10回　3月21日(木)(持回り)
議題1. 2024年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について

5.2 国際交流センター教職員打合せ会議

定期的にセンター教職員が集まって連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

5.3 室蘭市国際交流推進協議会総会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視野から国際交流を推進することを目的に、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に空閑良壽学長が就任している。

開催日：5月16日（火）、場所：室蘭市役所
主　催：室蘭市国際交流推進協議会
構　成：室蘭市、室蘭工業大学、室蘭市校長会、国際ソロプチミスト室蘭、一般財団法人　室蘭ルネッサンス、室蘭北ロータリークラブ、室蘭東ロータリークラブ、ノックスビルの会、日照市と友好の会、北海道内モンゴル友好協会、胆振国際理解教育研究会、室蘭ユネスコ協会、いぶり外国人フレンドシップ、学校法人　北斗文化学園、その他諸団体・機関
議　題：1. 令和4年度事業報告
　　2. 令和4年度収支決算報告
　　3. 令和4年度監査報告
　　4. 令和5年度事業計画（案）
　　5. 令和5年度収支予算（案）

5.4 マレーシア日本高等教育プログラム(UniKL JUP)進学説明会
開催日：6月18日（日)、場所：オンライン開催
出　席：寺本教授、渡邊教授、小野准教授、髙橋留学生係主任
主　催：クアラルンプール大学　(UniKL)
内　容：UniKL 進学説明会

5.5 多文化共生ネットワーク連携推進協議会
開催日:6 月 12 日(月)、場所:オンライン開催
出　席:髙橋留学生係主任
主　催:公益社団法人北海道国際交流･協力総合センター
議　題:･各団体における令和 4 年度の主な取り組みについて
　　･令和 5 年度の取り組みに関する計画について

5.6 令和 5 年度 国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会
開催日：11月30日（木)、場所：オンライン開催
出　席：長川事務局次長、伊藤国際交流室長
主　催：愛媛大学（当番校）
内　容：アフターコロナ時代における大学教育

5.7 令和 5 年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議
開催日：11月30日（木)、場所：オンライン開催
出　席：木幡国際交流センター長、長川事務局次長、伊藤国際交流室長
主　催：鹿児島大学（当番校）
内　容：・留学生交流の現状と今後の見直し
　　・日本学生支援機構が実施する留学生支援事業
　　・スーパーグローバル大学創生支援事業事例紹介
　　・各大学における取り組み例の紹介

5.8 大学の国際化促進フォーラム　臨時総会
開催日：12月12日（火)、場所：オンライン開催
出　席：永利留学生係長
主　催：東北大学（代表幹事校）
内　容：・大学の国際化促進フォーラムの法人化について
　　・法人等の設立に関する規約の制定について
　　・準備委員会および検討幹事会の体制について

5.9 令和 5 年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会
　本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けている。本懇談会は、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取組状況等を説明し、意見交換を通して理解を得るとともに、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的として開催した。

開催日：2月15日（木)、場所：アールベルアンジェ室蘭
主　催：室蘭工業大学国際交流センター
出席団体：室蘭市役所、室蘭市国際交流推進協議会、室蘭市教育委員会国際理解教育推進室、北海道胆振総合振興局、室蘭ロータリークラブ、室蘭北ロータリークラブ、いぶり外国人フレンドシップ、室蘭民報社、日中友好協会室蘭支部、室蘭市民観光ボランティアガイド協議会
・大学からの説明
　2023年度室蘭工業大学外国人留学生状況について
・意見交換
　本学外国人留学生に対する各支援団体からの要望について

5.10　令和 5 年度 大学の国際化促進フォーラム総会

開催日：3月5日（火）、場所：オンライン開催
出　席：中山国際企画係係員
主　催：東北大学（代表幹事校）
内　容：・2023年度活動報告
　　・大学の国際化促進フォーラム　3年間の活動総括
　　・2024年度事業について

6. 国際学術交流

国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2023 年度末時点で 55 大学・4 機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国・地域別では中国 10 大学、韓国 9 大学・1 機関、ドイツ 5 大学、タイ 6 大学、ロシア 1 大学・2 機関、台湾 5 大学、フィンランド 2 大学、アメリカ1大学・1機関、マレーシア 2 大学、ブラジル、フランス、オーストラリア、オーストリア、イギリス、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、イタリア、ベトナム、インド、インドネシア、モンゴル、ネパールが各 1 大学である。

2023 年度は、台湾の国立屏東大学、タイのメーファールアン大学、ドイツ・リューベック応用科学大学、韓国・韓国交通大学校、イギリス・ストラスクライド大学との交流協定を締結した。また、インドネシア・北スマトラ大学、中国・曲阜師範大学、ドイツ・ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部との交流協定の更新が行われた。

【国際学術交流協定】

以下のとおり、2023 年度末において国際学術交流協定は 55 大学・4 機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口 1、2、3 の順に記載

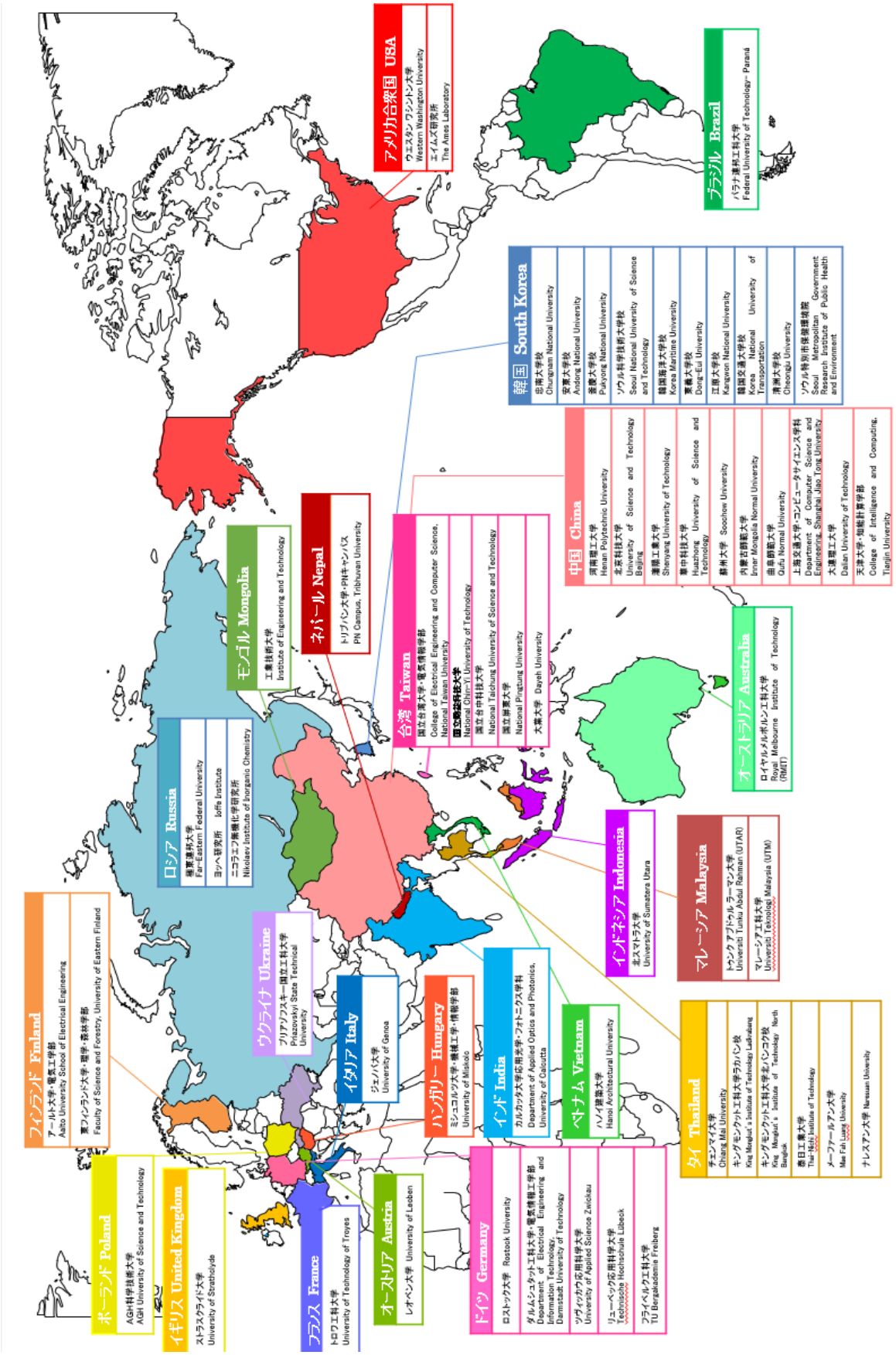
	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教　授　青　柳　　学 教　授　花　島　直　彦
2	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年 3 月 9 日	准教授　小　野　真　嗣
3	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	准教授　ゲイナー　ブライアン 准教授　小　野　真　嗣
4	アールト大学電気工学部	フィンランド	2001 年 3 月 15 日	教　授　花　島　直　彦 教　授　濱　幸　雄
5	北京科技大学	中国	2004 年 2 月 2 日	教　授　濱　幸　雄 准教授　倉　重　健　太　郎
6	ロストック大学	ドイツ	2019 年 10 月 10 日 (情報電気工学部とは 2004 年 2 月 20 日)	教　授　川　口　秀　樹 教　授　クラウゼ小野　マルギット
7	忠南大学校	韓国	2004 年 4 月 20 日	教　授　濱　幸　雄
8	安東大学校	韓国	2004 年 6 月 8 日	准教授　白　尚　燁 教　授　藤　木　裕　行
9	釜慶大学校	韓国	2021 年 3 月 17 日 (工科大学とは 2004 年 9 月 1 日)	教　授　張　容　喆 准教授　金　志　訓 准教授　白　尚　燁
10	チェンマイ大学	タイ	2005 年 4 月 19 日	教　授　風　間　俊　治 助　教　関　千　草

11	キングモンクット工科大学 ラカバン校	タイ	2005 年 4 月 20 日	教　授　佐　伯　　功 准教授　真 境 名 達 哉
12	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005 年 5 月 30 日	教　授　関 根 ち ひ ろ 准教授　葛 谷　俊 博
13	レオベン大学	オーストリア	2006 年 10 月 10 日	教　授　川 口　秀 樹 准教授　武 田　圭 生 講　師　松 本　大 樹
14	ミシュコルツ大学 機械工学・情報学部	ハンガリー	2006 年 11 月 13 日	教　授　川 口　秀 樹 准教授　武 田　圭 生 講　師　松 本　大 樹
15	ハノイ建築大学	ベトナム	2007 年 3 月 27 日	教　授　木 幡　行 宏 准教授　山　田　　深
16	ソウル科学技術大学校	韓国	2007 年 7 月 25 日	教　授　張　　榕 喆 教　授　岸 本　弘 立
17	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007 年 11 月 9 日	教　授　川 口　秀 樹 教　授　渡 邊　浩 太
18	瀋陽工業大学	中国	2007 年 11 月 9 日	准教授　白　　尚 燁
19	華中科技大学	中国	2007 年 11 月 12 日	教　授　清 水　一 道 教　授　董　　冕 雄
20	蘇州大学	中国	2007 年 11 月 26 日	教　授　太　田　　香 准教授　渡 邉　真 也
21	内蒙古師範大学	中国	2008 年 6 月 2 日	教　授　徳 樂　清 孝 准教授　加　野　　裕
22	韓国海洋大学校	韓国	2009 年 1 月 19 日	教　授　木 村　克 俊 准教授　吉 田　英 樹
23	AGH科学技術大学	ポーランド	2009 年 8 月 27 日	准教授　白　　尚 燁
24	極東連邦大学	ロシア	2010 年 2 月 19 日	准教授　安　居　光 國 教　授　濱　　幸 雄
25	泰日工業大学	タイ	2010 年 4 月 1 日	准教授　佐 藤　和 彦 教　授　藤 木　裕 行
26	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010 年 11 月 11 日	教　授　清 水　一 道 准教授　吉 田　英 樹
27	大葉大学	台湾	2010 年 12 月 1 日	教　授　近 藤　敏 志
28	ヨッヘ研究所	ロシア	2011 年 7 月 12 日	教　授　関 根 ち ひ ろ 准教授　葛 谷　俊 博
29	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012 年 6 月 8 日	教　授　クラウゼ小野　マルギット
30	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012 年 9 月 20 日	教　授　張　　榕 喆 准教授　矢 島　由 佳
31	北スマトラ大学	インドネシア	2013 年 2 月 15 日	教　授　河 合　秀 樹 教　授　大 平　勇 一
32	曲阜師範大学	中国	2013 年 4 月 1 日	教　授　河 合　秀 樹

33	東義大学校	韓国	2014 年 6 月 23 日	教　授　岸 本　弘 立
34	江原大学校	韓国	2014 年 10 月 3 日	教　授　岸 本　弘 立
35	パラナ連邦工科大学	ブラジル	2014 年 10 月 7 日	教　授　清 水　一 道 教　授　木 村　克 俊
36	トゥンクアブドゥルラーマン大学	マレーシア	2016 年 3 月 1 日	准教授　佐 藤　和 彦 教　授　塩 谷　浩 之 教　授　濱　幸 雄
37	トロワ工科大学	フランス	2016 年 3 月 1 日	准教授　加　野　裕 教　授　辻　寧 英
38	国立台中科技大学	台湾	2019 年 12 月 1 日 （情報流通学院とは 2016 年 11 月 8 日）	教　授　近 藤　敏 志
39	カルカッタ大学 応用光学・フォトニクス学科	インド	2016 年 11 月 10 日	准教授　加　野　裕
40	上海交通大学 コンピュータサイエンス学科	中国	2016 年 12 月 26 日	教　授　董　冕 雄
41	エイムズ研究所	アメリカ	2017 年 5 月 16 日	教　授　関 根 ち ひ ろ 准教授　葛 谷　俊 博
42	工業技術大学	モンゴル	2017 年 6 月 27 日	准教授　小 野　真 嗣 教　授　濱　幸 雄 講　師　松 本　大 樹
43	国立台湾大学・電気情報学部	台湾	2018 年 11 月 13 日	教　授　董　冕 雄 教　授　太 田　香
44	トリブバン大学 プリティビナラヤンキャンパス	ネパール	2019 年 1 月 23 日	准教授　佐 藤　和 彦
45	フライベルク工科大学	ドイツ	2019 年 1 月 25 日	教　授　クラウゼ小野　マルギット 准教授　安 居　光 國
46	東フィンランド大学 理学・森林学部	フィンランド	2019 年 3 月 18 日	准教授　渡 邊　真 也 教　授　董　冕 雄
47	清洲大学校	韓国	2019 年 8 月 19 日	教　授　濱　幸 雄 准教授　髙 瀬　裕 也 准教授　金　志 訓
48	ナレスアン大学	タイ	2019 年 9 月 19 日	准教授　佐 藤　和 彦
49	ジェノバ大学	イタリア	2019 年 10 月 7 日	教　授　関 根 ち ひ ろ 准教授　雨 海　有 佑 准教授　葛 谷　俊 博
50	大連理工大学	中国	2020 年 5 月 9 日	教　授　董　冕 雄 教　授　曲　明

51	天津大学・知能計算学部	中国	2020 年 9 月 22 日	教　授　董　冕　雄 教　授　太　田　香
52	マレーシア工科大学	マレーシア	2021 年 1 月 15 日	教　授　大 平　勇 一 准教授　小 野　真 嗣 准教授　白　尚 燁
53	国立勤益科技大学	台湾	2022 年 12 月 12 日	准教授　小 川 祐 紀 雄 助　教　徐　建　文
54	キングモンクット工科大学 北バンコク校	タイ	2023 年 2 月 3 日	教　授　佐　伯　功 准教授　安 藤　哲 也 教　授　亀 川　厚 則
55	メーファールアン大学	タイ	2023 年 7 月 10 日	教　授　有 村　幹 治 准教授　浅 田　拓 海
56	国立屏東大学	台湾	2023 年 7 月 28 日	准教授　坂 本　裕 子 助　教　寺　岡　諒
57	リューベック応用科学大学	ドイツ	2023 年 12 月 14 日	准教授　Maxie Pickert 教　授　川 村　志 麻 教　授　近 藤 敏 志
58	韓国交通大学校	韓国	2024 年 1 月 8 日	准教授　金　志 訓 教　授　濱　幸 雄 教　授　谷 口　円
59	ストラスクライド大学	イギリス	2024 年 1 月 29 日	副学長　佐 藤　孝 紀 准教授　川 口　秀 樹 助　教　高 橋　一 弘

図1　本学の学術交流協定校・機関



7. 外国人留学生

7.1 留学生数

本学は、1979 年から外国人留学生を受入れており、2007 年の国際交流センター設置後、留学生数も大幅に増え始め、2009 年に初めて 100 名に、2017 年には 150 名に到達し、2024 年は 164 名を受け入れるに至った。

留学生数(学科別・学年別)を表 1 に、留学生数(国籍別・身分別)を表 2 に、留学生数(年度別)を表 3 に、過去 20 年の留学生数(年度別)の推移をグラフ 1 に示す。なお、本活動報告書は 2023 度版であるが、最新のデータとして 2024 年 5 月 1 日の数字を計上した。

表 1 留学生数(学科・学年別)集計(2024 年 5 月 1 日現在 計 164 名)

【学部】

学　科　名	1年	2年	3年	4年	合計
創造工学科	9	5	10	14	38
システム理化学科	8	6	3	5	22
建築社会基盤系学科	−	−	−	1	1
機械航空創造系学科	−	−	−	−	−
応用理化学系学科	−	−	−	1	1
情報電子工学系学科	−	−	−	−	−
合　　計	17	11	13	21	62

【博士前期課程】

専　攻　名	1年	2年	合 計
環境創生工学系専攻	2	4	6
生産システム工学系専攻	4	7	11
情報電子工学系専攻	9	15	24
合　　計	15	26	41

【その他】

研究生	4
科目等履修生	0
特別研究学生	11
特別聴講学生	3
合　　計	18

【博士後期課程】

専　攻　名	1年	2年	3年	合計
工学専攻先端環境創生工学コース	3	5	8	16
工学専攻先端生産システム工学コース	0	0	3	3
工学専攻先端情報電子工学コース	11	7	6	24
合　　計	14	12	17	43

表2　留学生数(国・身分別)集計(2024年5月1日現在)

国名	学部			小計	博士前期課程			小計	博士後期課程			小計	研究生等			小計	合計			総計
	国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費	
中国	0	0	42	42	0	0	28	28	0	0	23	23	0	0	14	14	0	0	107	107
ﾏﾚｰｼｱ	0	6	7	13	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	10	16
韓国	0	0	7	7	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	5	6	0	0	0	0	2	0	6	8
ﾀｲ	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	4	0	0	2	2	4	0	3	7
ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	0	0	0	0	1	0	0	1	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6
ｲﾝﾄﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
ﾈﾊﾟｰﾙ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	3
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2
ﾓﾝｺﾞﾙ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ﾅｲｼﾞｪﾘｱ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ﾊﾟｷｽﾀﾝ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
小計	0	6	56	62	3	0	38	41	14	0	29	43	0	0	18	18	17	6	141	164

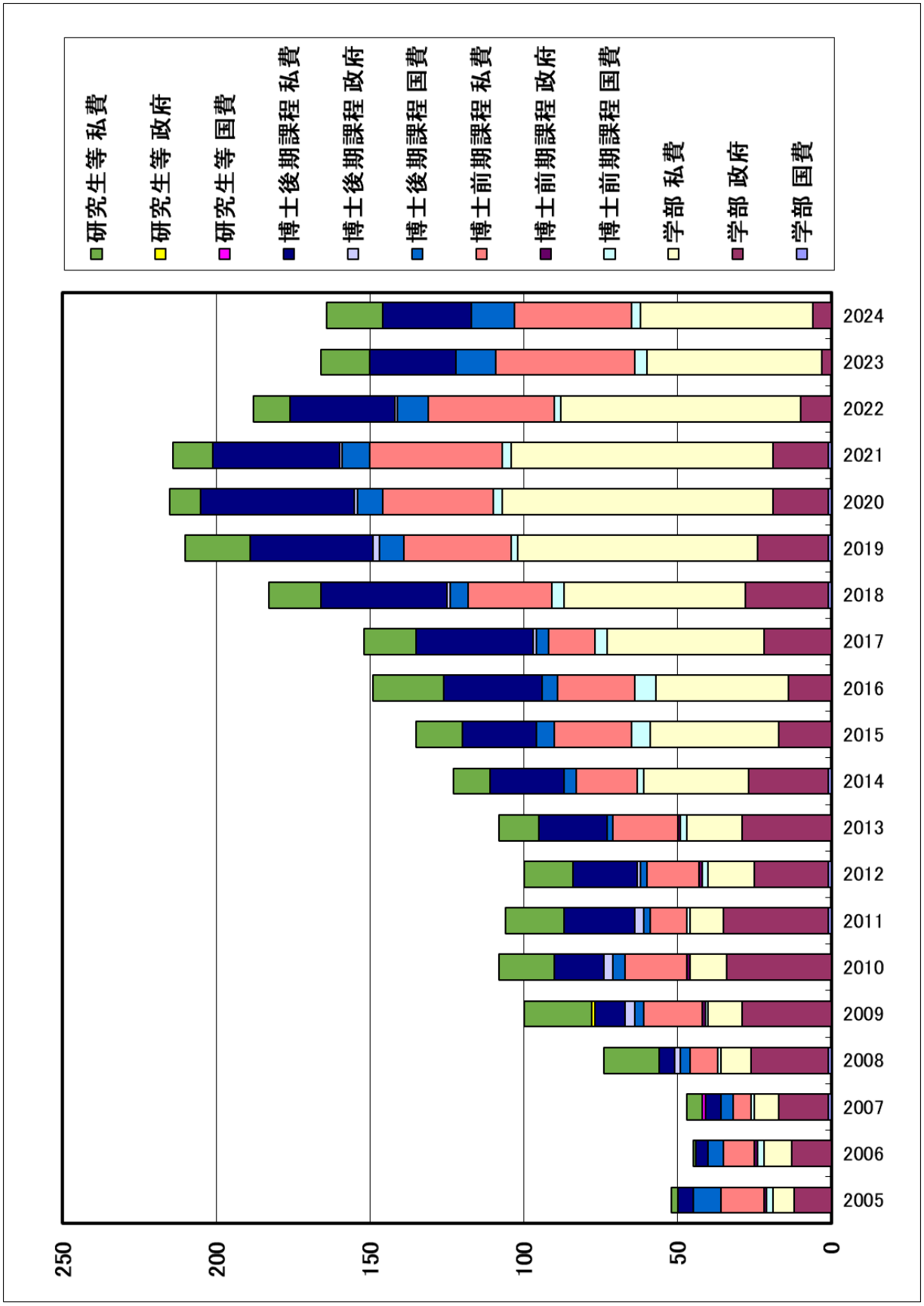
注1　学部私費留学生にはUniKL JUPプログラム5名を含む。

表 3 留学生数(年度別)集計(各年 5 月 1 日現在)

	学　部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小　計			合　計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123
2015	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106	135
2016	0	14	43	7	0	25	5	0	32	0	0	23	12	14	123	149
2017	0	22	51	4	0	15	4	1	38	0	0	17	8	23	121	152
2018	1	27	59	4	0	27	6	1	41	0	0	17	11	28	144	183
2019	1	23	78	2	0	35	8	2	40	0	0	21	11	24	174	210
2020	1	18	88	3	0	36	8	1	50	0	0	10	12	19	184	215
2021	1	18	85	3	0	43	9	1	41	0	0	13	13	19	182	214
2022	0	10	78	2	0	41	10	1	34	0	0	12	12	11	165	188
2023	0	3	57	4	0	45	13	0	28	0	0	16	17	3	146	166

2024	0	6	56	3	0	38	14	0	29	0	0	18	17	6	141	164

グラフ１　過去20年の留学生数(年度別)集計の推移(各年５月１日現在)



7.2 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表 4 のとおりであり、私費留学生の 34%が奨学金を受給している。

表 4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2023 年 10 月 1 日現在)

奨 学 金 名	学 部 (56)	博士 前期課程 (44)	博士 後期課程 (25)	研究生 (7)	特別 研究学生 (16)	特別 聴講学生 (2)	科目等 履修生 (0)	合 計 (150)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額 30,000 円)	6	16	3	0	0	0	0	25
室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金(月額 50,000 円)	0	0	0	0	2	2	0	4
CSC-MuroranIT 奨学金 (月額 30.000 円)	0	0	1	0	0	0	0	1
JASSO 私費外国人留学生学習奨励費 (月額 48,000 円)	2	6	0	0	0	0	0	8
JEES 留学生奨学金(修学) (月額 40,000 円)	0	1	1	0	0	0	0	2
財団法人日揮・実吉奨学会 留学生給与奨学金(年額 300,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
ドコモ留学生奨学金 (月額 120,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
佐藤陽国際奨学財団奨学金 (月額 40,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
朝鮮奨学金(学部) (月額 25,000 円)	2	0	0	0	0	0	0	2
朝鮮奨学金(修士) (月額 40,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
平和中島財団奨学金 (月額 120,000 円)	1	0	0	0	0	0	0	1
中国政府奨学金 (月額 150,000 円、170,000 円)	0	0	1	0	0	0	0	1
ロータリー米山財団奨学金 (月額 120,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
似鳥奨学金 (月額 50,000 円)	0	1	0	0	0	0	0	1
マレーシア MJHEP プログラム (月額 132,250 円)	2	0	0	0	0	0	0	2
合 計	14	28	6	0	2	2	0	52

注１　実受給者数は、51 名である。
注２　上段（　）は、私費外国人留学生数である。
注３　2023 度室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の延べ受給者数は、40 名であった。

7.3 宿舎

(1)研究員宿舎

宿舎名	部屋タイプ
国際交流会館(研究員宿舎)	シングル:6 室、ツイン:1 室

(2)留学生宿舎

宿舎名	部屋タイプ	入居期間
国際交流会館(留学生宿舎 1)	1 名入居、 12 室	1 年
明徳寮	3 名入居、 25 室	1 年
大昭グリーンヒル2(留学生宿舎 2 ※)	1 名入居、 6 室	1 年

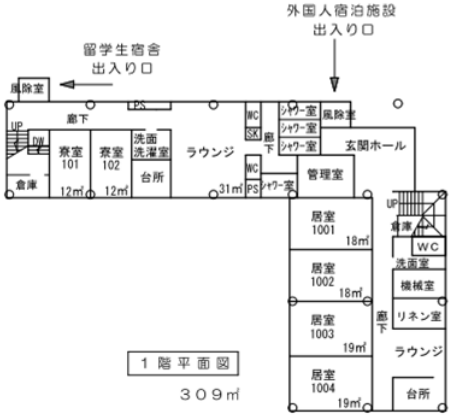
※ 2019 年 10 月より大学が借り上げた指定宿舎として運用。

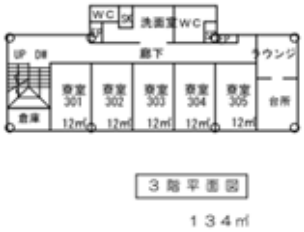
この他に室蘭市から、市営住宅 22 室を留学生用の宿舎として借り受けている。

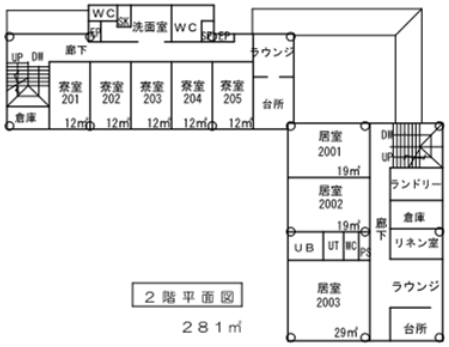
7.3.1 国際交流会館

2012 年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し、2012 年 11 月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し、運用を開始した。

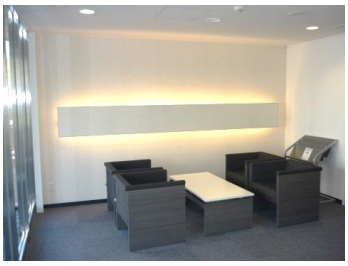
外観





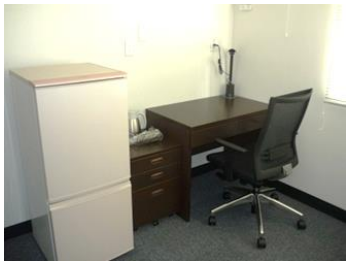


国際交流会館（研究員宿舎）



玄関ロビー

キッチン（共同）

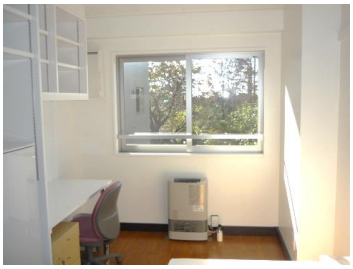


個室

国際交流会館（留学生宿舎 1）

ラウンジ

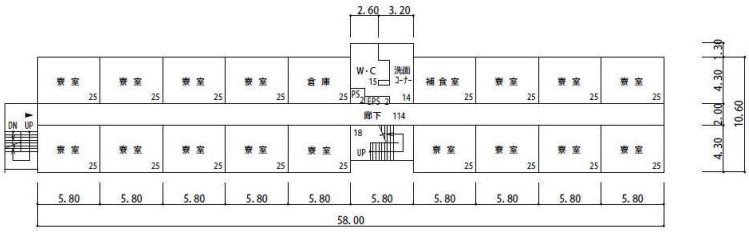
キッチン（共同）

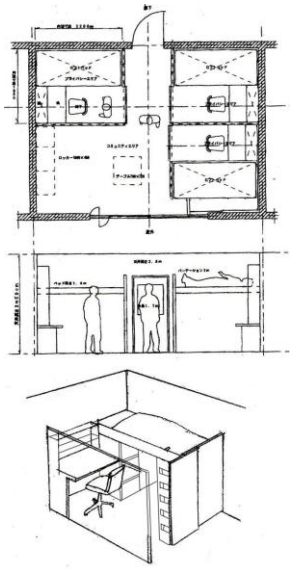


個室

7.3.2 明徳寮　A棟 3 階（9 室）・4 階

外観





個室ブース

補食室（各階共同）

浴室（共同）

洗濯室（共同）

7.3.3 大昭グリーンヒル 2(留学生宿舎 2)

外観

個室

台所

7.3.4 市営住宅(水元団地)

外観

和室

台所

8. 国際交流センター教員が担当した講義

8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が 2023 年度に担当した講義は、以下のとおりである。2022 年度は大学院工学研究科のカリキュラム変更前最終年度であり、従前からの科目展開の最後の年となり、特に初級科目については移行のための準備の年となった。一方、2020 年度からのコロナ禍対応も徐々に緩和され、対面展開も多くの科目で実施された。しかしながら、新入生となる留学生の一部は入国が遅れる事態は続き、学期始期から受講生が揃わないことも多く、五月雨式に来蘭する留学生の事情に合わせた対応に終始した。

2023 年度前期（第 1・第 2 クオーター）	2023 年度後期（第 3・第 4 クオーター）
学部生対象　日本語科目	学部生対象　日本語科目
日本語 A-1 （読解）	日本語 A-2 （読解）
日本語 B-1 （作文）	日本語 B-2 （作文）
日本語 C-1 （科学技術日本語）	日本語 C-2 （日本語プレゼンテーション）
日本語 D-1 （日本語能力試験対策）	日本語 D-2 （日本語能力試験対策）
大学院生対象　日本語科目	大学院生対象　日本語科目
日本語初級 A 注1　日本語中上級 A 注2	日本語初級 B 注1　日本語中上級 B 注2
※日本語初級 A へ単位認定可能な授業	※日本語初級 B へ単位認定可能な授業
初級ⅠA　初級ⅠB　初級Ⅱ	初級ⅠA　初級ⅠB　初級Ⅱ
※日本語中上級 A へ単位認定可能な授業	※日本語中上級 B へ単位認定可能な授業
中上級Ⅰ（旧 MA1）　中上級Ⅱ（旧 MD1）	中上級Ⅰ（旧 MA2）　中上級Ⅱ（旧 MD2）
※その他の非単位の日本語補講授業	※その他の非単位の日本語補講授業
初級漢字　初級会話	初級漢字　初級会話
学部・大学院　共通科目	学部・大学院　共通科目
異文化交流 B/MA 注3	異文化交流 A/MB 注3
海外留学注4, 5　海外研修注4	海外研修注4

注1　2023 年度の大学院カリキュラム変更により日本語初級 A・B の各科目は、科目名称のクラスが独立して存在する訳ではなく、レベルに応じて細分化された初級の各授業を半期受講することにより「単位認定」される形式に変更された。
注2　2023 年度の大学院カリキュラム変更により日本語中上級 A・B の各科目も、科目名称のクラスが独立して存在する訳ではなく、上級レベルとして開講されている学部授業を受講するか、中級レベルで開講された旧 MA1～MD2 に相当する授業を半期受講することにより「単位認定」される形式に変更された。
注3　A/B は理工学部、MA/MB は大学院対象の科目名称である。前期は理工学基礎教育センター所属のクラウゼ小野マルギット教員が担当した。後期から新カリ適用となり、8 週 1 単位科目に変更となった。
注4　海外留学、および海外研修については第 12 章で述べる。
注5　カリキュラム変更に伴い、海外語学研修の名称から変更された科目である。

8.2 学部生対象　日本語科目

学部生には正課の授業として8科目8単位分の日本語科目が展開されている。このうち4単位分が「人と社会に関する科目」として卒業単位に含めることができる。また、申請により第二外国語科目1単位分として展開されている「ドイツ語」や「中国語」に代えて日本語科目を充てることができる制度を整備している。さらに、別の申請により英語科目8単位分を日本語科目に充てることができる制度も整備している。留学生のニーズにより、各自が強化したい技能に応じて授業を選択できるようになっている。

＜前期開講分＞

(1) 日本語 A-1

担当：小野真嗣　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中上級　　受講者数：5 名(学部 1 名・大学院 4 名)

授業内容：日本語の読解力を高めることを希望する学生向けに、新聞記事を中心とした長文を正確に読解し、選択問題を通じた内容理解、及び記述回答、200 字程度の意見論述を行う授業を展開した。

(2) 日本語 B-1

担当：坂本裕子　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中上級　　受講者数：2 名(学部 2 名)

授業内容：文章作成に必要な日本語表現とアカデミックジャパニーズの習得を中心に授業を展開し、個別最適化された文章作成手法の学習と大学での講義への応用を図った。

(3) 日本語 C-1

担当：小野真嗣　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中級　　受講者数：11 名(学部 6 名・大学院 5 名)

授業内容：科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。遠隔授業で利用した Moodle を介してのビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われた。

(4) 日本語 D-1

担当：白　尚燁　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中上級　　受講者数：7 名(学部 5 名・大学院 2 名)

授業内容：日本語能力試験N1受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

＜後期開講分＞

(5) 日本語 A-2

担当：坂本裕子　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中上級　　受講者数：3 名(学部 2 名・大学院 1 名)

授業内容：日本語のさまざまな文章を批判的に読み、議論を行うことを通じて、他者の思考を理解し自己の思考を深めること、およびそれを論理的に伝えるための表現力の養成を

図った。

(6) 日本語 B-2

担当:小野真嗣　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:3 名(学部 2 名・大学院 1 名)

授業内容:就学中、就学後に触れる中上級レベルの日本語作文を作文課題形式で実施した。自己推薦書、就学目的、研究計画などの学業面のみならず、企業内文書などのビジネス場面での文書作成や形式習熟のための科目として実施した。

(7) 日本語 C-2

担当:坂本裕子　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級　　受講者数:8 名(学部 5 名・大学院 3 名)

授業内容:発表に必要な日本語表現の習得とプレゼンテーションの手法を、アクティブラーニングにより、効果的かつ効率的に習得できるよう図った。

(8) 日本語 D-2

担当:白　尚燁　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中上級　　受講者数:5 名(学部 5 名)

授業内容:前期と同様の授業展開である。

8.3 大学院生対象　日本語科目

2023 年度入学の大学院生からは、新カリキュラムが適用されることとなった。従来の日本語入門、日本語 MA1～MD2 の合計9科目9単位分の展開を大幅に変更し、カリキュラム表上では4科目4単位に集約されることとなった。人文社会系の副専修科目は修了要件として2単位までに制限されたことが背景にある。一方、大学院に入学する外国人留学生は4月入学、10月入学でますます多様化し、日本語の習熟レベルも大きく異なり、未修者からJLPT N1を取得済の上級者まで幅が広く、多様な授業展開を継続しなければならない事情もかかえている。そこで、科目名と授業を分離し、レベルに合わせて複数展開され、プレスメントを経て配属された半期開講の日本語授業を受けることにより、単位を認定する方式に改められた。

8.3.1 日本語初級授業

4月入学、10月入学と年2回の入学時期が定着したことにより、前期と後期は基本的には同じ授業を開講している。受講した授業の開講期に応じ、前期は「日本語初級 A」、後期は「日本語初級 B」の科目として単位認定することとし、実際の科目として下記にかかげる授業が展開されている。日本語学習経験が少ない、又は全くない学生を対象とした授業として開講されている。

＜前期開講分＞

(1)日本語初級ＩA

担当:坂本裕子(専任)・山本さやか(非常勤)　時間数:3 時間(2 回)／週

受講者数:5 名　　使用教材:『日本語初級Ｉ　大地』(12 課まで)

(2)日本語初級ＩB

担当:山本さやか(非常勤)　　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:4 名　　使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(13 課以降)

(3) 日本語初級Ⅱ
担当:小野真嗣(専任)・小澤典代(非常勤)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:2 名　　使用教材:『日本語初級Ⅱ　大地』(39 課まで)

＜後期開講分＞

(4)日本語初級ⅠA
担当:坂本裕子(専任)・小澤典代(非常勤)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:13 名　　使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(12 課まで)

(5)日本語初級ⅠB
担当:坂本裕子(専任)　　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:3 名　　使用教材:『日本語初級Ⅰ　大地』(13 課以降)

(6) 日本語初級Ⅱ
担当:小野真嗣(専任)・小澤典代(非常勤)　時間数:3 時間(2 回)／週
受講者数:5 名　　使用教材:『日本語初級Ⅱ　大地』(39 課まで)

＜補講分＞

(7)日本語初級漢字(前期)
担当:小野真嗣(専任)　　時間数:1.5 時間(1 回)／週
受講者数:2 名　　使用教材:『ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク初級①』(12 課まで)

(8)日本語初級漢字(後期)
担当:小野真嗣(専任)　　時間数:1.5 時間(1 回)／週
受講者数:3 名　　使用教材:『ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク初級①』(13 課以降)

(9)日本語初級会話(前期)
担当:坂本裕子(専任)　　時間数:0.5 時間(3 回)／週
受講者数:3 名　　使用教材:自主教材

(10)日本語初級会話(後期)
担当:坂本裕子(専任)　　時間数:0.5 時間(2 回)／週
受講者数:4 名　　使用教材:自主教材

(11)日本語初中級会話(前期)
担当:坂本裕子(専任)　　時間数:1.5 時間(1 回)／週
受講者数:4 名　　使用教材:自主教材

(12)日本語初中級会話(後期)
担当:坂本裕子(専任)　　時間数:1.5 時間(1 回)／週
受講者数:8 名　　使用教材:自主教材

8.3.2 日本語中上級授業

初級と同様に 2023 年度より開講期に応じて、前期は「日本語中上級 A」、後期は「日本語中上級 B」の科目として単位認定することに変更された。主に学部から進学した外国人留学生は、学部生向けに展開されている 8.2 にかかげる A-1～D-2 の8科目の中から上級授業として受講することとなった。一方、海外から直接入学した大学院生のうち、8.3.1 にかかげる初級相当のレベルを終えている者は、下記の中級レベルとして開講した日本語授業を選択した。

＜前期開講分＞

(1) 中上級Ⅰ（旧 MA1）

担当：白　尚燁　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中級　　受講者数：2 名

使用教材：自作プリント

授業内容： 初級後半の N3 レベルの文型・表現を用いて会話・文法・語彙力の向上を図った。

(2) 中上級Ⅱ（旧 MD1）

担当：白　尚燁　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中級　　受講者数：2 名

使用教材：自作プリント

授業内容：日本語能力試験N2 受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

＜後期開講分＞

(3) 中上級Ⅰ（旧 MA2）

担当：白　尚燁　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中級　　受講者数：2 名

使用教材：自作プリント

授業内容：前期と同様の授業展開である。

(4) 中上級Ⅱ（旧 MD2）

担当：白　尚燁　　時間数：1.5 時間（1 回）／週

レベル：中級　　受講者数：1 名

使用教材：自作プリント

授業内容：前期と同様の授業展開である。

※旧カリキュラムで展開していた MB1、MB2、MC1、MC2 については、当時より学部と大学院の合同開講だったため、それぞれ学部開講の B-1、B-2、C-1、C-2 に統合する形で新カリキュラムへ移行した。

8.4 学部 一般教養 人と社会に関する科目群 ・ 大学院 副専修 国際コミュニケーション科目群

上記の日本語科目の他、国際交流センターでは学部生対象副専攻科目と大学院生対象副専修科目がある。こちらは留学生専用科目ではなく、日本人学生と一緒に学ぶ共修科目となる。

＜前期開講分＞

センター教員による担当科目無し。

＜後期開講分＞

(1)異文化交流 A・MB(学部・大学院 合同開講)

担当:小野真嗣　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:27 名(学部 19 名・大学院 8 名)

授業内容:日本人学生と外国人留学生がほぼ半数ずつとなるように構成して活動を行う合同科目である。今期は日本人学生 16 名、外国人留学生 11 名の計 27 名が参加した。教員による講義の他、学生間の調査活動を通じ、授業内アクティビティやプレゼンテーションを行って文化理解を相互に深める授業である。前半は公用語に焦点をあて、各国の言語運用事情や背景について国籍別グループによる集団発表とし、後半は文化に関するトピックを学生が個々に選び、国籍混合型グループにより国・地域別の違いに留意した調査活動・発表とした。途中回でオーストラリア RMIT 大学からの短期研修生によるゲスト参加もあり、リアルな異文化交流の機会にも恵まれ、受講者からも高い満足度が示された。

(2)言語文化特論 B(大学院科目　後期 4Q 開講)

担当:白　尚燁　　時間数:1.5 時間(1 回)／週

受講者数:5 名

授業内容:この授業では、世界の言語のうち、7つの異なる語族から代表言語を 1 つずつ選定し、検討することで、各語族の言語特徴について理解するばかりではなく、言語の普遍性と多様性に気づくことを目的とする。

1) 7 つの異なる語族における言語特徴について理解する。

2) 言語の普遍性と多様性について認識する。

3) 自分の母語または学習経験のある言語との類似点と相違点について考える。

4) 言語間の類似点と相違点を見つけ出す方法論を学ぶ。

9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拡げることを目的としている。

第 53 回　室蘭工大国際セミナー
開 催 日:　2023 年 6 月 30 日
テ ー マ:　「米国ノックスビルから室蘭へ　～訪問団から大学教員に！～」
講 演 者:　本学特任講師
　　コリー・ハンター・リード氏

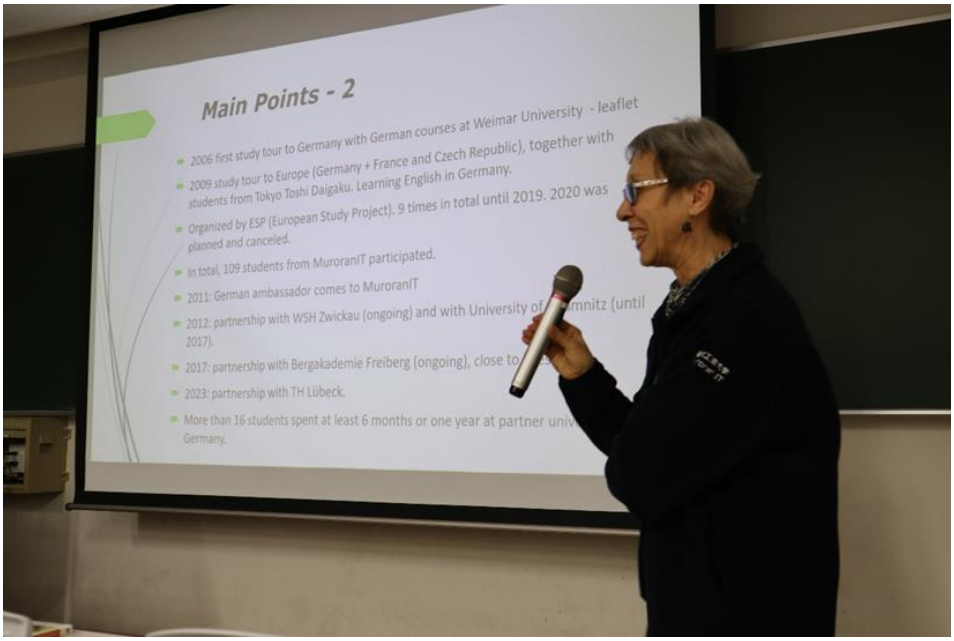
講演を行うコリー先生

第 54 回　室蘭工大国際セミナー

開 催 日:　2024 年 2 月 8 日

テ ー マ:　「海外との人的交流はなぜ必要か　～室蘭流のさらなる国際交流展開を期待して～」

講 演 者:　本学ひと文科系領域　教授
クラウゼ　小野　マルギット氏



講演を行うクラウゼ先生

10. 留学生を対象とした行事及び研修等

10.1 国際交流センター主催行事

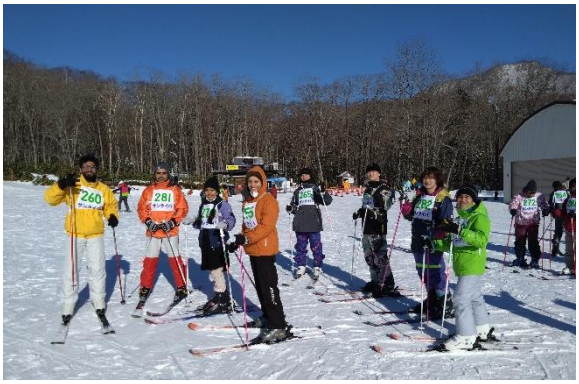
開催日	行　事　名	行　事　の　内　容	参加者数
2023 年 5 月 10 日	留学生オリエンテーション	新たな留学生に対して、オンラインにて留学生関係教職員の紹介を行い、日本での生活上の注意事項を説明する。	留学生 24 名
2023 年 5 月 22 日	新入学生歓迎会	新たな留学生との懇親会を行う。	留学生 10 名
2023 年 6 月上旬	室蘭岳登山	国際交流センターで主催。 留学生が室工大ワンダーフォーゲル部・国際交流クラブとの学生間交流を深めることを目的とする。	中止（※）
2023 年 6 月 26 日、29 日	登別鬼花火見学会	室蘭周辺の観光名所を案内する目的で、登別温泉の名物行事「登別鬼花火」を見学。	留学生 26 名
2023 年 10 月 14 日	秋の見学旅行	4 月以降に入学した留学生を中心に、室蘭市・壮瞥町・洞爺湖町の観光名所を案内し、胆振地域に関する理解を深めさせるとともに、留学生同士の交流を図る目的で実施した。	留学生・家族 28 名
2024 年 1 月 4 日	野外セミナー	冬期間部屋に閉じこもりがちな留学生に対して、北国の冬期間の楽しみ方を紹介している。	留学生・家族 41 名
2024 年 2 月 19 日	留学生交流会	卒業・修了予定の留学生に対して学長からお祝いの挨拶があり、留学生がアトラクションを披露した。	留学生 37 名

※ 悪天候のため中止となった。

新入生歓迎会

登別鬼花火見学会

秋の見学旅行



野外セミナー

留学生交流会

10.2 学外の諸行事への留学生派遣及び参加の状況

10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生 派遣人数
2023年4月～2024年3月	室蘭身体障碍者福祉協会	英会話講座講師派遣	1
2023 年 11 月 15 日	みなと小学校	国際交流教室	3
2023 年 11 月 27 日	天神小学校	国際交流教室	3
2023 年 11 月 29 日	八丁平小学校	国際交流教室	3
2023 年 11 月 30 日・12 月 1 日	蘭北小学校	国際交流教室	2
2023 年 12 月 20 日	地球岬小学校	国際交流教室	1
合 計			13

10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	行事の内容	留学生 参加人数
2023 年 5 月上旬	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流 フェスティバル	長沼国際交流フェスティバルに本学の留学生が参加。	中止 (※1)
2023 年 5 月下旬	室蘭北ロータリークラブ	室蘭岳登山	室蘭北ロータリークラブ主催により、室蘭岳(標高 911 メートル)登山が開催され、室蘭北ロータリークラブの皆様と登山をしながら交流を深める。	中止 (※1)
2023 年 6 月下旬	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング	室蘭市の招待によりイルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加する。	中止 (※2)
2023 年 7 月 29 日	むろらん港まつり実行委員会	市民踊り	むろらん港まつりのイベントの1つである「総参加市民おどり」に留学生が参加する。大学職員とともに「室蘭ばやし」や「北海盆唄」に合わせて街を踊り歩き、日本のお祭りを楽しむ。	留学生 16 名
2023 年 7月 19 日 11 月 22 日	室蘭消費者協会	エコな小物づくり;押し絵で干支飾りつくり	「押し絵」という日本の伝統的な手芸を体験	留学生 4 名
2024 年 2 月 10 日	室蘭市国際交流 推進協議会 (協賛:国際ソロプチミスト)	さっぽろ雪まつり見学会 バスツアー	・雪まつり大通会場の見学。 ・北海道大学総合博物館の見学。	留学生・家族 23 名
合 計				43

※1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

※2 悪天候のため中止となった。

10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
随時	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャー	5
合　計			5

むろらん港まつり実行委員会主催
むろらん港まつり　市民おどりの様子

室蘭市国際交流推進協議会（協賛：国際ソロプチミスト）
さっぽろ雪まつり見学会バスツアーの様子

11. 学術交流協定校・機関との交流

11.1 協定校等への訪問

(1) マレーシア・マレーシア工科大学(UTM)／マレーシア・日本国際工科院(MJIIT)

・訪問日程：2023 年 11 月 8 日
・訪 問 者：学　長　空閑　良壽
　　副学長　董　冕雄
　　経理課　係長　境　謙
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・サテライトオフィス予定地の視察、学術交流に関する協議等

両大学関係者の記念撮影

記念品を交換している両大学代表者

(2) 台湾・国立台中科技大学

・訪問日程：2023 年 11 月 24 日
・訪 問 者：学　長　空閑　良壽
　　ひと文化系領域　准　教　授　白 尚燁
　　ひと文化系領域　准　教　授　坂本 裕子
　　総務広報課　係長　宮下 慎也
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

記念品を交換している両大学学長

国立台中科技大学における協議

(3) 台湾・国立屏東大学

・訪問日程：2023 年 11 月 25-26 日

・訪 問 者：学　長　空閑　良壽

副学長・教授　董 冕雄

ひと文化系領域　准　教　授　白 尚燁

ひと文化系領域　准　教　授　坂本 裕子

総務広報課　係長　宮下 慎也

・訪問内容：国立屏東大学創立 10 周式典、学術交流協定締結、表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

国立屏東大学創立10周年記念式典で陳 永森学長に本学記念品を手渡す空閑学長

情報学部との協議

情報学部の施設を見学する本学代表団

(4) イギリス・ストラスクライド大学

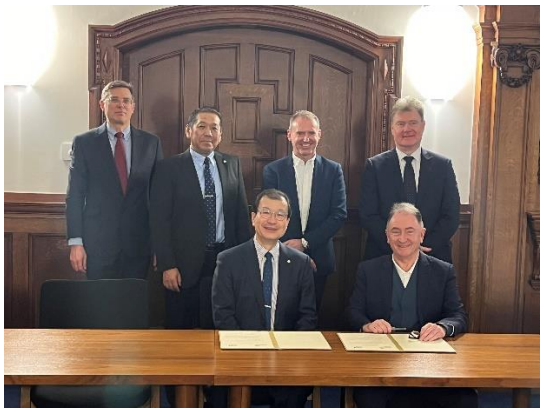
・訪問日程：2024 年 1 月 29 日

・訪 問 者：学　長　空閑　良壽

理事・副学長　佐藤　孝紀

ひと文化系領域　准　教　授　白 尚燁

・訪問内容：学術交流協定締結、表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



調印後の両大学参加者の記念撮影

ストラスクライド大学正門で記念撮影

(5) ドイツ・リューベック応用科学大学

・訪問日程：2024 年 3 月 25 日
・訪 問 者：准教授　吉田　英樹
　　入試課国際交流室国際企画係員　中山　昂紀
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

(6) ドイツ・ツヴィッカウ応用科学大学

・訪問日程：2024 年 3 月 27 日
・訪 問 者：准教授　吉田　英樹
　　入試課国際交流室国際企画係員　中山　昂紀
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

(7) ドイツ・フライベルク工科大学

・訪問日程：2024 年 3 月 28 日
・訪 問 者：准教授　吉田　英樹
　　入試課国際交流室国際企画係員　中山　昂紀
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

11.2 外国、協定校等からの訪問受け入れ

(1) マレーシア・トゥン・フセイン・オン大学(UTHM)

・訪問日程：2023 年 6 月 12 日
・訪 問 者：准教授　MOHAMMAD RASIDI IBRAHIM
　　博士 MOHAMMAD SUKRI MUSTAPA 他学生 12 名
・訪問内容：表敬訪問、研究施設・機関の見学、特別講義聴講、本学学生との交流等

船水理事表敬訪問

両大学関係者の記念撮影

(2) 中国・北京科技大学材料国際コース学生訪問団来学

・訪問日程：2023 年 8 月 30 日
・訪問者：北海道大学　名誉教授　大貫 惣明
　　北京科技大学材料国際コース教員　Zhang Qiuman
　　北京科技大学材料国際コース教員　Che Kunpeng 他学生 19 名
・訪問内容：本学材料工学分野の研究施設見学

北京科技大学訪問団と本学関係者

本学教員からの講義を聴いている北京科技大学学生

(3) 台湾・国立屏東大学

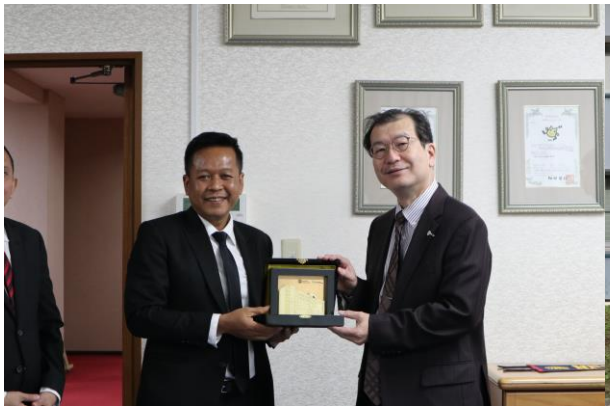
表敬訪問後の記念撮影

コンピューター科学センター見学

・訪問日程：2023 年 8 月 31 日
・訪問者：学長　Robert Y. S. Chen
　　国際交流センター長・教授　Kelvin H.-C. Chen
　　日本語応用学科教授　Pi-Lan Kuo
・訪問内容：学長表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等

(4) インドネシア・北スマトラ大学

・訪問日程：2023 年 10 月 10 日
・訪問者：学長　Prof. Dr. Muryanto Amin S.Sos.
　　副学長 Muhammad Arifin Nasution S.Sos.
　　国際交流センター長・教授　Prof. Dr. Eng. Himsar Ambarita
　　職員　Ikhsan Siregar
　　秘書 Sity Ayu Novarina Suyanto
・訪問内容：学長表敬訪問、研究施設・機関の見学、学術交流に関する協議等



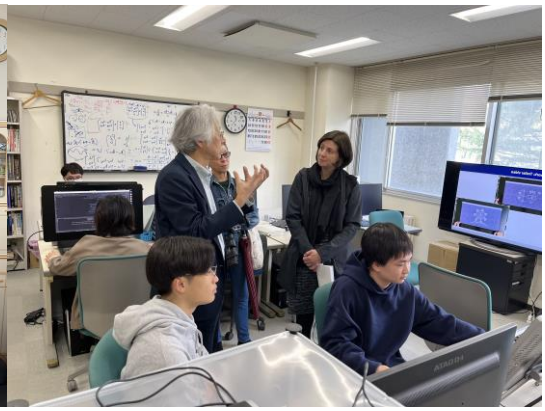
記念品を交換している両大学学長

ものづくり基盤センター見学後の記念撮影

(5) ドイツ・リューベック応用科学大学

・訪問日程：2023 年 10 月 25 日
・訪問者：教授　Monique Janneck
・訪問内容：研究施設・機関の見学、学術交流協定締結及び学術交流に関する協議等

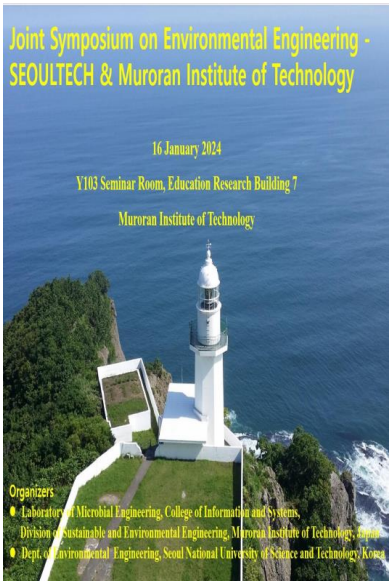
表敬訪問後の記念撮影



佐賀教授の研究室見学

11.3 共同セミナー、共同事業等の実績について

MuroranIT Rare Earth Workshop 2023 ポスター



ソウル科技大学・室蘭工業大学ジョイントシンポジウム

(1) MuroranIT Rare Earth Workshop 2023

・日時: 2023 年 11 月 25 日～26 日

・主催: 室蘭工業大学 希土類材料研究センター

・概要: MuroranIT Rare Earth Workshop は、2016 年に始まった国際ワークショップで、2023 年に 7 回目を迎えた。ハイブリッド(対面＋オンライン)開催となった 2023 年のワークショップでは、招待講演とポスター発表の 2 つのセッションに分かれ、希土類の用途開発を中心とする国内外の最新の研究成果が発表された。

・参加機関: エイムズ研究所（アメリカ)、ジェノバ大学（イタリア)、バラチダッサン大学（インド)、チェンマイ大学（タイ)、中国科学院（中国)、室蘭工業大学、東京大学、東北大学、大阪大学、金沢大学、芝浦工業大学など（日本）

(2) Joint Symposium on Environmental Engineering SEOULTECH & Muroran Institute of Technology

・日時: 2024 年 1 月 16 日

・主催: 室蘭工業大学しくみ解明領域 希土類材料研究センター、ソウル科技大学環境工学学科

・概要: 本学と協定校ソウル科技大学環境工学学科の共催で行われたジョイントシンポジウムで環境工学に関する教員の発表と大学院生の発表が行われた。

12. 学生の海外への派遣

12.1 学術交流協定校への派遣留学

1. 学生氏名: 片寄　陸
   所　　属: 環境創生工学系専攻 2 年
   派 遣 先: ハノイ建築大学(ベトナム)
   期　　間: 10 ヶ月間(2023 年 5 月～2024 年 2 月)
   経済支援: 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)

2. 学生氏名: 本持　憩
   所　　属: 創造工学科 3 年
   派 遣 先: リューベック応用科学大学(ドイツ)
   期　　間: 12 ヶ月間(2024 年 3 月～2025 年 2 月)
   経済支援: 日本学生支援機構海外留学支援制度(協定派遣)

12.2 マレーシア・マレーシア工科大学(UTM)研修

期間: 2023 年 8 月 23 日～9 月 7 日

内容: 英語コミュニケーション授業、マレーシアの文化・歴史・社会についての講義、クアラルンプール中心部のセントラルマーケット等での散策、博物館施設等の見学、マレーシア学生との交流、マレーシアの別の協定校 UTAR への訪問など

参加者: 11 名(男子 6 名、女子 5 名)

1.	石田　薫奈	創造工学科	2 年
2.	松塚　莉央	創造工学科	1 年
3.	加藤　凛音	創造工学科	1 年
4.	中田　蓮	創造工学科	1 年
5	室　拓実	創造工学科	1 年
6	岩城　考雲	創造工学科	1 年
7	幸田　志歩	創造工学科	1 年
8	青山　麟太郎	創造工学科	1 年
9	吉田　瑛輔	創造工学科	1 年
10	工藤　真咲	苫小牧高専	2 年
11	小林　武央	システム理化学科	4 年
引率:	小野　真嗣	ひと文化系領域	准教授

12.3 オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）語学研修

期間:　2024 年 3 月 9 日～3 月 20 日

内容:　英語コミュニケーション授業、オーストラリアの文化・歴史・社会についての講義、歴史ある海辺の街クイーンズクリフでメルボルン市内史跡・博物館・動物園などの見学、グレートオーシャンロードツアー、ムーンバフェスティバル鑑賞、ホームステイなど

参加者:　8 名（男子 6 名、女子 2 名）

1.	濱田　祐太郎	創造工学科	1 年
2.	石田　薫奈	創造工学科	2 年
3.	佐藤　柊太	創造工学科	1 年
4.	安達　真生	システム理化学科	1 年
5.	牛島　宏	創造工学科	4 年
6.	石澤　峻	システム理化学科	2 年
7.	今野　翔天	創造工学科	2 年
8.	西川　航誠	創造工学科	3 年
引率:	Gaynor Brian Nollaig	ひと文化系領域	准教授

12.4 タイ・泰日工業大学研修

(1) サマープログラム

期間:　2023 年 8 月 23 日～8 月 31 日

内容:　泰日工業大学の学生との国際交流、マングローブ植林プログラム、在タイ日系企業訪問、アユタヤ観光、タイ・日本の友好と歴史の学習、入門タイ語学習、日本語授業の見学・参加など

参加者:　2 名（男子 1、女子 1 名）

1.	後藤　梨那	創造工学科	3 年
2.	酒井　俊輔	システム理化学科	4 年

(2) スプリングプログラム

期間:　2024 年 3 月 12 日～3 月 21 日

内容:　英語での国際経営の講義、TNI およびアセアン地域の学生との国際交流、寺院や水上マーケットの訪問、タイ料理やキックボクシング、タイアートの体験など

参加者:　1 名（男子 1 名）

1.	関口　慶一	生産システム工学系専攻	1 年

12.5 国際共同研修プログラム

(1) インドネシア・北スマトラ大学

期間:　2023 年 9 月 11 日～9 月 17 日

内容:　ゼロカーボン・カーボンニュートラルに関する国際共同研究を軸とした本学修士学生の海外研修

参加者:　3 名(男子 3 名)

1.	今井康輔	生産システム工学系専攻	2 年
2.	下村海斗	生産システム工学系専攻	2 年
3.	八木佳亮	生産システム工学系専攻	4 年
プログラム担当・引率:	大石　義彦		准教授

(2) タイ・メーファールアン大学

期間:　2023 年 11 月 13 日～19 日

内容:　タイ InCit2023 への参加を通じた本学向け特設の特別授業や学生交流の派遣プログラム

参加者:　2 名(男子 2 名)

1.	蛯名　将平	環境創生工学系専攻	1 年
2.	桐木　峻平	環境創生工学系専攻	1 年
プログラム担当・引率:	有村　幹治		教授

(3) モンゴル・工業技術大学

期間:　2024 年 2 月 25 日～3 月 3 日

内容:　工学教育途上国への訪問による学生間の相互研究・文化交流

参加者:　5 名(男子 5 名)

1.	藤澤龍昇	環境創生工学系専攻	1 年
2.	吉田敦貴	システム理化学科	4 年
3.	金塚天志	創造工学科	2 年
4.	佐野蒼馬	創造工学科	1 年
5.	照井　陽	創造工学科	1 年
プログラム担当・引率:	澤田　紋佳	しくみ解明系領域	助教

(4) 台湾・国立屏東大学

期間:　2024 年 3 月 4 日～13 日

内容:　Discover Taiwan Program

参加者:　8 名(男子 6 名、女子 2 名)

1.	加藤　なつみ	創造工学科	3 年
2.	渡邊　勇志	情報電子工学系専攻	2 年
3.	若林　ゆり	システム理化学科	1 年

4.	スミリヤニチ嶺欧	創造工学科	1 年
5.	佐々木　雄太	創造工学科	1 年
6.	坂本　心	創造工学科	1 年
7.	篠原　颯太	創造工学科	1 年
8.	榎原　匠海	創造工学科	2 年
プログラム担当・引率:	坂本　裕子	ひと文化系領域	准教授

(5) 韓国・韓国海洋大学校

期間:　2024 年 3 月 17 日～3 月 23 日

内容:　韓国語・文化研修プログラム

参加者:　3 名（男子 1 名、女子 2 名）

1.	金塚　天志	創造工学科	2 年
2.	菊池　妃織	創造工学科	2 年
3.	小堆　紗和	システム理化学科	1 年
プログラム担当・引率:	白　尚燁	ひと文化系領域	准教授

(6) ネパール・トリブバン大学

期間:　2023 年 3 月 18 日～29 日

内容:　ネパール文化に触れる共同研修ワークショップ

参加者:　4 名（男子 3 名、女子 1 名）

1.	桐木　峻平	創生工学系専攻	1 年
2.	小栗 颯太	システム理化学科	3 年
3.	浦田　明	創造工学科	3 年
4.	稲船　宏太	創造工学科	3 年
プログラム担当・引率:	佐藤　和彦	しくみ解明系領域	准教授

12.6 ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生

1. 学生氏名:　江藤　歩
   所　　属:　創造工学科 2 年
   活動内容:　Summer Work Travel 2023（アメリカ）
   期　　間:　2023 年 8 月 11 日～9 月 23 日

2. 学生氏名:　加藤　なつみ
   所　　属:　創造工学科 3 年
   活動内容:　アクティブバンクーバー英語研修（カナダ）
   期　　間:　2023 年 8 月 13 日～9 月 10 日

3. 学生氏名:　鈴木　絢子

所　　属:　環境創生工学系専攻　1 年
活動内容:　IICPAC BALI 2023（インドネシア）
期　　間:　2023 年 9 月 13 日～17 日

4.　学生氏名:　後藤　梨那
所　　属:　創造工学科　3 年
活動内容:　英会話スクールイートックはってん英語（フィリピン）
期　　間:　2024 年 2 月 28 日～3 月 7 日

12.7 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

本奨励金は、年 2 回募集し、8 名程度に各 10 万円を授与する。今年度の受賞者はいなかった。

賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士（工学）である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009 年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和 2 年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成 18 年「X 線 CT 法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士（工学）の学位（主査　桃野正教授）を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故　佐藤矩康（さとう　のりやす）博士　略歴

昭和 2 年 4 月　北海道上富良野町生まれ
名寄小学校、名寄中学校を経て、
昭和 25 年 3 月　北海道大学医学専門部卒業
昭和 25 年 4 月　北海道立札幌医科大学内科学教室入局　医師
以後　日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長　等を歴任
昭和 34 年 10 月　札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設
平成 12 年 4 月　信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師
平成 23 年 9 月　逝去

12.8 海外語学研修説明会・留学帰国報告会・個別説明会

教員からの本学の留学プログラム及び留学奨学金の紹介、海外留学に参加した学生からの体験談や談話会などを通して、幅広く海外留学のPRをする目的で実施している。

【海外語学研修説明会】
開 催 日 時:　2023 年 5 月 12 日
場　　所:　C310、N202
参加学生数:　約 66 名

【マレーシア工科大学（UTM）研修個別説明会】
開 催 日 時:　2023 年 6 月 6 日
場　　所:　教育・研究 3 号館 N202

参加学生数:　　約 10 名

【海外留学説明会・帰国報告会】

開 催 日 時:　　2023 年 11 月 30 日

場　　所:　　C204

参加学生数:　　約 7 名

【ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)語学研修個別説明会】

開 催 日 時:　　2023 年 12 月 6 日、12 日

場　　所:　　N202

参加学生数:　　約 13 名

13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ

13.1 外国人短期研修生受入れ

外国人短期研修生受入れ制度は、本学の学術交流協定校の正規課程に在籍する外国人学生が本学において研修（講義、演習、実習等）を受けるものである。

RMIT 日本語研修生受入

期　間：11 月 8 日（水）～11 月 21 日（火）

内　容：本研修は、本学学術交流協定校のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）で日本語を学ぶ学生の受け入れである。当研修は、夏に実施した本学の RMIT 短期派遣研修と双方向の研修として行われ、学生同士が活発に交流を行っている。今年度は、日本語による授業、北海道の自然や文化施設等の見学、ホームステイ体験及び実施体験等の研修を行った。

藍染体験の様子

地球岬観光

13.2 外国人インターンシップ研修生受入れ

インターンシップ研修生受入制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。

2023 年度は下記のとおり 7 名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学等	受入期間	受入教員
MEIXUAN LI	中国	東北師範大学	2023/8/1－2023/10/28	高橋　雅朋
KAN TIPPAYAMONTRI	タイ	チェンマイ大学	2023/10/23－2023/12/22	関根　ちひろ
SARIT THEPPITAK	タイ	チェンマイ大学	2023/11/6－2023/12/22	関根　ちひろ
MUNKHZORIG SAINBAYAR	モンゴル	工業技術大学付属高専	2024/1/5-2024/1/19	澤田　紋佳

ALTANKHUU BATBAATAR	モンゴル	工業技術大学付属高専	2024/1/5-2024/1/19	澤田　紋佳
PUREVSUREN KHUSEL-ERDENE	モンゴル	工業技術大学付属高専	2024/1/5-2024/1/19	澤田　紋佳
KHURELSUKH OCHIRSUKH	モンゴル	工業技術大学付属高専	2024/1/5-2024/1/19	澤田　紋佳

13.3 外国人研究員受入れ

本学独自の滞在費支援制度である室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費は、2012 年度から国際連携による共同研究の展開を目的として創設された。

2023 年度は下記のとおり 3 名の外国人客員研究員を受け入れた。

氏名	国	大学等	受入期間	受入教員
THUBLAOR THAMMAPORN	タイ	キング・モンクット工科大学北バンコク校	2023/4/24－2023/7/13	佐伯　功
PHUANGYOD ATCHARIYA	タイ	キング・モンクット工科大学トンブリー校	2023/6/6－2023/7/8	関根　ちひろ
WEI　ZHANG	中国	伊犂師範大学	2023/12/13－2024/3/11	高橋　雅朋

14. 国際交流クラブ

文責：　国際交流センター教員　小野真嗣

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体（学生サークル）で、1994 年に、その当時の留学生数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。その後、異文化との触れ合いに関して意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来 20 年以上が経過して留学生の数も出身国も増えたことにより、一年を通じて活発に国際交流が行われるサークルとなった。

新型コロナウィルス感染症の五類引き下げ後、ようやくコロナ禍以前の対面性のあるアクティブな活動ができるようになり、2023 年度はその再稼働の初年度となった。新入生のクラブ員が加入し、クラブ主催の新歓行事も再開が叶い、非常に活気のある様子が見られるようになったことは大変喜ばしいことである。やはり、人から人への情報伝達など対面のコミュニケーションを通じた活動は、次なる活動を呼び込むことにつながっており、夏季・春季の海外研修への参加率の向上などにもクラブ活動は大きく寄与している。教職員による広報力にも限界があり、学生から学生へ伝わる生の海外研修や異文化交流の体験談の強さには、改めて驚かされる年となった。

一方、コロナ禍４年間で伝承されてきたものの損失は大きく、クラブ主体の活動企画についてはノウハウがほぼ失われてしまったため、クラブ顧問の支援は今まで以上に大きくなったが、少しずつ経験を積み上げていきながら、また４年ほどかけて次の学年・次世代に引き継がれるよう、クラブ指導に従事したいと考えている。下の写真はクラブ新歓行事の時の集合写真であるが、活動の様子についてはコロナ禍で培われた動画編集技術により、一部公開されている。QR コードにアクセスして、適宜ご覧いただければ幸いである。

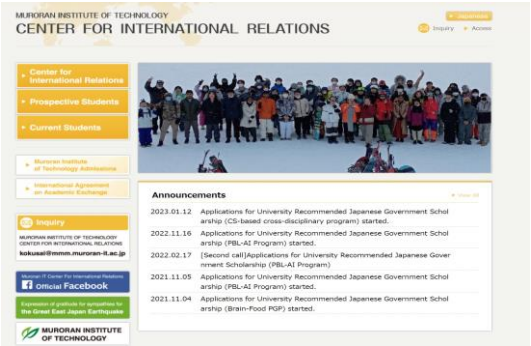
YouTube 動画（ https://youtu.be/_1gqqckc658 ）

2023 年度の国際交流クラブ集合写真（新入生クラブ員歓迎会の様子）

15. 広報活動

15.1 国際交流センターホームページ

日本語版トップページ



英語版トップページ

15.2 英文概要・国際交流センターNews

英文概要

国際交流センターNews 14 号

15.3 オリジナルグッズ

風呂敷

スマホスタンド

トートバッグ

ポケットティッシュ

15.4 広報活動グッズ

旗

イスカバー

16. 教員の研究活動

木幡 行宏

○論文

(1) 菅原正則，木幡行宏，松田圭大，川端伸一郎，菊池優希，軽量盛土材と珪砂の混合土の下層路盤への適用性の検討，土木学会論文集，79 巻，21 号，pp.1-12，2024 年 3 月.

○国際会議 Proceedings

(1) Masanori SUGAWARA, Yukihiro KOHATA, “Applicability of Lightweight Geomaterials for the Pavement Subbase in Cold Regions”, Proc. of 9th International Symposium on Environmental Vibration and Transportation Geodynamics, 2024 年 3 月.

(2) Hung Khac Le, Yukihiro Kohata, Hung Quang Duong, “Effect of fiber material on cyclic behavior of Liquefied Stabilized Soil under cyclic loading”, Geotechnics for Sustainable Infrastructure Development, 2023 年 12 月.

○研究報告

(1) NAO MINZHURE，木幡行宏，菅原正則：繰返し載荷履歴を受けた軽量盛土材の力学特性，地盤工学会北海道支部技術報告集，64 号，pp.119-124，2024 年 1 月.

(2) 渡邉詩織，木幡行宏：繊維材混合流動化処理土の繰返し三軸せん断特性に及ぼす初期応力の影響，地盤工学会北海道支部技術報告集，64 号，pp.273-278，2024 年 1 月.

(3) 横井天駿，木幡行宏：細砂による巻き込みジオグリッド補強地盤の支持力・変形特性，地盤工学会北海道支部技術報告集，64 号，pp.205-210，2024 年 1 月.

(4) 菅原正則，川端伸一郎，松田圭大，木幡行宏，菊池優希：異なる粒度の粒状路盤材における CBR と凍上性に関する基礎的研究，地盤工学会北海道支部技術報告集，64 号，pp.125-130，2024 年 1 月.

○学会等発表（口頭発表）

(1) 渡邉詩織，木幡行宏：単調および繰返し載荷による繊維材混合流動化処理土の非排水三軸せん断特性，地盤工学会第 58 回地盤工学研究発表会講演概要集，p.13-5-1-06，2023 年 7 月 13 日，福岡.

(2) 木幡行宏，関根悦夫，山中光一：小型 FWD による K 値のばらつきに関する一斉試験，地盤工学会第 57 回地盤工学研究発表会，第 58 回地盤工学研究発表会講演概要集，p.11-2-3-01，2023 年 7 月 11 日，福岡.

(3) 菅原正則，木幡行宏，遠藤弘気，菊池優希：軽量盛土混合材の剛性変化に及ぼす粒度分布の影響，第 57 回地盤工学研究発表会講演概要集，p.11-23-3-05，2023 年 7 月 11 日，福岡.

小野 真嗣

○論文

(1) 小野真嗣，曽我聡起，菊地真人，田邉鉄：WordNet 収録データの可視化による語彙学習サービスに向けた語彙関係表示システムの開発，CIEC 春季カンファレンス論文集，15，pp.24-30，2024 年 3 月.

○国際会議 Proceedings

(1) Ono. M.，Soga T.，Kikuchi. M.，& Tanabe. T.；Consideration of Language Learning Service with Visualized Vocabulary Map Derived from WordNet, Proceedings of 8th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR2023), May 2023, Thai-Nichi Institute of Technology, Thailand.

○学会等発表（口頭発表）

(1) 北島大夢，曽我聡起，小野真嗣：概念辞書 WordNet を用いた語彙学習サービスの提案に向けた英語学習者ニーズ調査分析　ー挫折理由の把握による学習満足度の向上を目指してー，コンピュータ利用教育学会北海道支部(CIEC-Hokkaido) PC カンファレンス北海道 2023，PC カンファレンス北海道論文集，pp.23-24，2023 年 12 月 17 日，酪農学園大学，北海道江別市.

(2) 小野真嗣，細川大和，佐藤和彦，曽我聡起，菊地真人，田邉鉄：統合学習語彙の階層表示機能を用いた学習サービス利用に関する研究，コンピュータ利用教育学会北海道支部(CIEC-Hokkaido) PC カンファレンス北海道 2023，PC カンファレンス北海道論文集，pp.25-26，2023 年 12 月 17 日，酪農学園大学，北海道江別市.

(3) 桐木俊平，小野真嗣：積極的な国際活動の実践による研究遂行力の向上，第 29 回高専シンポジウム in Nagaoka，第 29 回高専シンポジウム講演要旨集，F-08，2024 年 1 月 27 日，長岡高専，新潟県長岡市.

○外部資金獲得

(1) 科学研究費補助金　基盤研究（C）　「既存英語語彙表の再活用に向けたユーザビリティ尺度による有効性測定と満足度調査」研究代表者.

(2) 科学研究費補助金　基盤研究（C）　「工学系地方大学の協働による自律英語学習を支援する学習プラットホームの構築」研究分担者.

白 尚燁

〇著書

(1) Baek, Sangyub, Solon, *The Tungusic Languages*, A. Vovin, J. A. Alonso de la Fuente, & J. Janhunen (eds.), pp.206-233, New York: Routledge. 2023年8月

(2)白　尚燁「地域言語学的観点から見たツングース語族の条件形について」『北太平洋の先住民文化―歴史・言語・社会』岸上伸啓（編），pp.90-112, 京都：臨川書店. 2024年3月

〇学会等発表（口頭発表）

(1) Baek, Sangyub, Differences of lexical borrowings in Tungusic from the perspective of areal linguistics, Seoul International Altaistic Conference 2023, Altaic Society of Korea, Seoul　2023年7月21日.

(2) Baek, Sangyub, Differences of lexical borrowings in Tungusic from the perspective of areal linguistics, International Symposium: Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific, National Museum of Ethnology, Osaka 2023年11月4日.

〇外部資金獲得

(1) 科学研究費補助金　若手研究「サハリンエウェンキ語の記述：サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」(研究代表者).

(2) 科学研究費補助金　基盤研究 (A)「シベリア先住民諸語の総合的研究： 文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」(研究分担者)

坂本 裕子

〇論文

(1) 坂本裕子，自己調整学習を促すしくみづくりに向けてーNudge 理論を応用した日本語読解授業の試みー，室蘭工業大学紀要，73，pp.49-62，2024 年 3 月 22 日.

〇国際会議 Proceedings

(1) 坂本裕子，郭碧蘭，次世代知日派人材育成に向けてーキャリアインタビューからの学び 2023 応用日本語国際シンポジウム「ニューノーマル時代の日本語教育と日本研究」，台湾応用日語学会，2023 年 4 月 29 日.

(2) 坂本裕子，郭碧蘭，日本語教育におけるインターンシップの重要性と課題，2023 年度台湾日本語文学会国際学術シンポジウム ―国際教育としての台湾日本語文研究のブレイクスルー―，台湾日本語文学会・中国文化大学日本語文学科，2023 年 12 月 9 日.

〇講演（招待講演）

(1) 坂本裕子，異文化理解と社会人スキル，国立屏東大学応用日本語学科講演会，2023 年 4 月 27 日.

〇外部資金獲得

(1) 公益財団法人国際文化交流事業財団 令和 5 年度人物交流派遣・招聘事業，台湾 国立屏東大学における研究と交流，2023 年 4 月.

17. おわりに

国際交流センター准教授　白　尚燁

2019 年から 3 年間猛威を振るったコロナ禍に起因するいろんな制約から完全に開放され、2023 年度は海外大学・研究機関との本格的な学術交流が再開できた時期でした。ここでは、海外学術交流協定、本学学生の海外派遣、海外大学・研究機関からの受入を中心に触れたいと思います。

まず、海外大学・研究機関との新たな学術交流協定締結において、特に取り上げたいことは本学がイギリス・ストラスクライド大学とドイツ・リューベック応用科学大学との学術交流協定締結です。イギリス・ストラスクライド大学との協定締結は、スコットランドにある大学としては初めての協定締結になり、今後電気工学分野における研究者交流と共同研究が期待できます。また、ドイツ・リューベック応用科学大学との協定により、長期と短期の学生交流を積極的に推進していきたいと考えています。協定締結してすぐ建築分野の本学学生の長期留学が実現できました。次年度には、相手大学からインターンシップ研修生の受入を予定しており、双方向の学生交流を期待しています。このようなヨーロッパ地域における新たな海外協定校開拓により、本学学生の研究目的の長期留学と異文化理解目的の短期研修につながると信じています。

次に、海外協定校であるオーストラリア・RMIT、マレーシア・マレーシア工科大学、インドネシア・北スマトラ大学、ネパール・トリブバン大学、台湾・国立屏東大学、モンゴル・工業技術大学、タイ・メイーファールアン大学、韓国・海洋大学校から協力を得て過去最多である 7 か国・地域で海外短期研修が実施され、本学学生が多様な文化に触れる機会を提供しました。短い期間ではありますが、海外研修での経験をもとに、異文化に対する興味と理解が深まり、長期留学につながるきっかけになることを願っています。

海外大学校・研究機関からの受入においても、オーストラリア・RMIT と中国・北京科技大学から学生を受入、短期研修プログラムを実施しました。また、本学と韓国ソウル科技大学校による環境工学分野の共同シンポジウムの開催は、両大学学生による研究交流の場となり、語学力を含む研究成果発信の仕方について勉強になる貴重な経験になったと思います。

2024 年度も、海外研究教育機関との交流を積極的に進めることで、本学の国際化に向けて邁進していきたいと考えています。

室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学　国際交流センター

〒050－8585　室蘭市水元町27番1号

https://u.muroran-it.ac.jp/oia/

E-mail: kokusai@muroran-it.ac.jp

TEL：（0143）46－5885

FAX：（0143）46－5889